

「県への提案」に寄せられたご提案について（8月受付分）

受付日	タイトル	ご提案
8月3日	県民が可哀想	今回の熊本地震亡くなられた方 被災に遭われた方 ほんとに大変で言葉で表現するのは難しいですが 大変だと思います。熊本県は素晴らしい件ではありますが こんな時にこんな事言うのは不謹慎と思われるかもしれませんが ニュースを見てビックリしたのは 避難所でクーラ壊れてる 電波が弱い？？これほんとだったら 10年前の地震被害 何を勉強して 何を教訓したんですか？？避難訓練は遊びやないんですよ！！被災された方 この暑いのに そんなミス許さないですよ！！舐めてんんですか人を 情け無いみんなあのニュースを見て言ってますよ！！もっと真剣に考えろ死ぬ気でやれよ県民のために
8月3日	被災における国と全国への要望をすべき・・・	高温化の現在に炎天下に独自で車中泊やらテント張って地べたにシート&マット引きながら生活してる方々の多さには根中傷による第二被害は避けて通れません！国&仮設製造業者&設置業者に要望配信し、学校のグラウンド&広場に仮説ハウス&仮説事務所を多く設置し各シンガー系芸能人の大規模なライブに使われています何十台も設置します大型発電機を設けて頂き野外生活の方々を守っていただきましょう！
8月3日	地震の避難民の方々	非難されている方はマスクを外すよう伝えてください。熱中症になります。
8月3日	1日も早い市民のプライベート確保	熊本の被災者の方々が1日も早い人としての安心できる暮らしの選択がなされて行きますよう願ってやみません。女性、子供さんが間仕切りもない体育館で何日も人の目にさらされて、精神がおかしくなります。こんな状況は国と自治体が即刻対処すべきです。一人ひとりが使用できるテントの確保を行う。これは出来るはずで。国からの支援が届いてなければその事実を訴えて下さい。外国人による空き巣などこれからどんどん増えていきますよ。女性や子供さんが襲われたりする被害も心配です。どうにかして下さい。
8月3日	令和8年熊本地震	地震で被害が大きい箇所の家に住めない方で高齢者の方達を熊本市などのホテルを県が借りまとめて一時避難としては如何でしょうか？食事などは支援頂いたのを配る様な形でお風呂熱中症防止になるかと家に入れない方は仮設住宅迄と長い時間を要します小さい子供がいる方家に入れない高齢者はホテルへ家に入れる方は避難所と分けた方が効率も良くなるかと市内は報道の方とかもご利用されてるみたいだし優先順位が違うかと思います 【県からの回答】 この度は、ホテルに避難場所を確保することについて、御提案をいただきありがとうございました。 既に報道等がなされておりますが、避難生活の長期化による被災者の心身の負担軽減を図るため、御提案いただきましたような、避難を希望される被災者を対象としたホテル等への避難を、令和8年8月3日から開始しております。 現在、協力を申し出ていただいた県内全域のホテル等とのマッチングを進め、順次避難をいただいているところです。 今後とも県政への御理解、御協力をよろしくお願い申し上げます。 【参考】ホテル等避難について URL : https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/208/275618.html
8月3日	運動公園	震発生後から運動公園の利用ができませんが、再開できる部分があれば再開を希望します。大変な時ですが、運動して気分転換したいのに利用できずに困ってます。特にアーチェリーはどこでもできるスポーツではないので... 【県からの回答】 御意見いただきました件につきまして、県有体育施設は、令和8年7月28日に発生した地震の影響により、利用を休止しておりましたが、熊本県民総合運動公園（パークドームを除く）につきましては、8月5日より利用を再開しております。 パークドームにつきましては、復旧のめどが立っておらず、再開の時期は未定となっております。 御利用者におかれましては、大変ご迷惑をおかけしますが、一日も早い熊本の復興に向けて、職員一丸となって取り組んで参りますので、今後とも県営体育施設管理・運営への御理解、御協力をよろしくお願い申し上げます。

8月3日	地震被災者の支援について	地震に対する県の対応に不満がある。被災状況の把握に大きな力を傾けておられるように見受けられるが、今一番大切なことは被災者、避難者の支援ではないだろうか。今、生きていて生活に困っている県民をいかに助けるかではないだろうか。風呂に入れない、暑くて眠れない、トイレに困っているとかの、助けようと思えばすぐにも助けることのできることに、まったく対応できていないと思う。広域避難ということが盛んにマスコミなど言われているが、県の責任者として知事はそのことに対応しようとしているのだろうか。県営住宅や市営住宅でも多くの空き家がある。そういった空き家を被災者の一時避難所として活用することも可能ではないか。被災状況の調査も大事だが、今生きている被災者の手厚い支援こそが今知事や市長がやるべきことではないだろうか。
8月3日	災害時におけるホテル・旅館等の避難施設としての活用について	今回の熊本県内の地震に関する報道を見て、災害時の避難所のあり方について提案があります。大規模災害が発生した際、学校の体育館等が避難所として利用されますが、長期間にわたる避難生活では、プライバシーの確保、犯罪の予防、睡眠や入浴、衛生環境、空調などの面で避難者に大きな負担が生じます。特に高齢者、乳幼児、障害のある方などにとっては、避難所での生活そのものが大きな負担になる場合もあります。そこで、災害時には地域のホテル・旅館等を国や自治体が一定期間借り上げ、避難施設として積極的に活用する仕組みを、より大規模かつ迅速に運用できるよう整備していただきたいです。宿泊施設側についても、災害によって通常営業ができなくなることを考慮し、国等が宿泊費を負担するだけでなく、必要に応じて営業上の損失を補填する仕組みを設ければ、施設側にも協力してもらいやすくなるのではないかと思います。現在もホテル・旅館を二次避難先として活用する仕組みがあることは承知していますが、要配慮者等に限らず、避難所での生活が長期化する場合には、より幅広い被災者がホテル等へ移動できる体制をあらかじめ整えておくことが重要だと考えます。避難所の環境を改善するために物資や設備を整えることももちろん重要ですが、既存の宿泊施設という社会資源を活用することで、被災者の生活環境を直接改善すると同時に、被災した宿泊事業者への経済的支援にもつながるのではないのでしょうか。今回の地震を一つのきっかけとして、避難している方々の安全のためにも今後起こり得る大規模災害に備え、ホテル・旅館等を活用した避難体制のさらなる拡充について検討していただければと思います。
8月3日	一般人に何をさせる	十分物資は届きますって、その前に避難所に段ボールベッドや扇風機でもいいから何故寝る体勢を作らない。砂利に布団敷いて外で寝てる92歳のおばちゃん。ブルーシートが避難所に敷いてあるだけに寝てる高齢者の方。自衛隊、九電、水道事業者、ましてや一般人や他県の人達の動きが早いのは役所は何をしますか。暑さや疲れは命奪います。優先順位が違うでしょ。ガソリンすたんどなんてどこもいっぱい現場が1番でしょ。あんな避難所恥ずかしい。災害関連死覚悟してますか
8月3日	上海と日本の直行便について	県有地を民間に売却する意図・根拠が知りたい、上海との直行便ができると聞きましたが県有地を民間に、売却した事実を作ったうえで、行き来しやすい状況を作ってしまうと上海からの視察者が大量に入国します、そして安全で格安の別荘地として利用され日本のルールなんて守る気すらない人達が安易に押し寄せます。そのような状況を作り国民の日本人の生活は守れるのでしょうか？もし万が一それらが原因で国民の、日本人の日本人らしい生活が損なわれる事態が生じた場合それなりの責任のとり方で考えておられるのか、伺いたいです！
8月3日	県外ホテルへ避難を	避難所や車中泊での避難ではなく、県外の安全なホテルへ避難誘導お願い致します。大分のホテルを利用して下さい。
8月3日	二次避難について	お見舞い申しあげます。大変な中、メールなんて読みたくもないと思いますが二次避難考えて頂き嬉しいです！せめて水が通るまでは二次避難大賛成です！東京のテレビやラジオでは熊本の人は人が良すぎてガマンし過ぎ！と心配しています。熊本の人達は被害者なのですから、国は熊本の人の良さに甘えちゃってます。国は下から声を上げないと動かないと言います。どんどん声を上げ国に直談判！せめて水が通るまでは二次避難、ホテルやウィークリーマンションetc国が一括借り上げで直談判！熊本県民の為に宜しくお願い致しますm(_ _)m
8月4日	生活水が足りなくて、子供達が大下痢し始めました。助けて下さい。	供達が下痢し始めました。助けて下さい。熊本の被災地の断水は、現在、8万戸です。約16万人の飲料の水が、衛生環境を保つ生活水が、足りません。断水していない、公立小中学校の水道代を無料にし、被災した方々が自由に生活水が確保できるように開放して下さい。

8月4日	今回の被災地の高齢被災者の保護について。	自分は、内科医ですが、ニュースでも、流れている通り、被災した、特に、高齢者、身障者を、キャンセルの出た熊本市内のホテル等へ、一泊1000円ぐいで、一時、被災宿泊者として、貸し出すというのは、どうでしょうか？。交渉で、県が、2000円ぐらい、出すとか。宿泊客が、居ないよりは、ホテル側には、お金が、入るので、少しは、いいのではと。県営の火の国ハイツは、閉館したが、一時、又、開けるというのは。ホテルピースフルも、耐震構造が、高く、温泉も、付いて、良い。これで、被災家族の、少しは、負担、負担も減り、被災処理が、しやすい。今後、日奈久断層帯南部も、大地震が、起こる可能性が、あり、こういう、対策も、今後、考えていいかと。高齢者等には、今回の猛暑は、非常に、堪えるかと、思う。
8月4日	被災者のトイレ	15年前の東北の震災のとき、東京都が公園にマンホールを設置して、地震で水洗トイレが利用できなくなったときマンホールをトイレとして利用できるようにするとテレビ放送していました。熊本も地震が多いのでトイレ用マンホールを設置してほしいです。 【県からの回答】 ご意見のとおり、マンホールトイレは直接下水道に接続できるトイレで、断水時であっても利用が可能なもので、今回の地震においても複数個所で使用されています。また、水を使用しない簡易トイレや、少量の水で利用できる循環型のトイレカーやトイレトレーラー等を避難所に設置し、必要なトイレの確保に取り組みました。ご意見を踏まえ、今後の災害に備え、こうした災害用トイレの充実に努めて参ります。
8月4日	外国人犯罪の責任の所在について	ほとんど、被害届出す時点で出国済みです。ヒットアンドアウェイ外国人を増やすのであれば被害を被った人への補償が必要です。そんな事は無い、と切り切るなら知事個人が全て賠償する、と宣言してください
8月4日	高市早苗 避難所訪問	質問1 この情報は本当ですか？「日本人として本当に良かった」と言った島田博行さんは、熊本県町村監査委員協議会副会長および氷川町の代表監査委員。質問2 島田氏ほか4名の選定理由を教えてください 質問3 この5名はどここの避難所で生活されていますか？ 質問4 島田氏の発言は被災者の総意と考えて良いですか？ 質問5 クーラーの効いた校長室で面談したことで被災地の実情が高井早苗に伝わったと思いますか？ 質問5 校長室を面談の場として決めたのは誰ですか？高市早苗の指示ですか？ 質問6 この面談は高市早苗、政府のプロパガンダに使われていると言う認識は有りますか？ 質問7 前の震災から10年経過し避難所の環境が改善しない理由は何か把握していますか？ 質問8 被災地の現場で苦勞されている被災者の皆様の声を届けるチャンスを劇団員の政府に付度する言葉で濁したのは何故ですか？ 質問9 このようことをしてるから被災地の避難所の環境が改善しないと言うことがわかりませんか？ 質問10 クーラーの無い避難所の板の間にマットも仕切りも無く被災者を雑魚寝させたことに関してどのようにお考えですか？ 前の震災から10年、何をされてたのか疑問です。
8月4日	地震の復旧作業について	なぜ昼間に作業をしないといけないのでしょうか？ワーキングタイムは9.00～17.00というのはこの猛暑日には無理です。命に関わります！ボランティアの方々、もちろん家の片付けをしている被災者の方々、自衛隊の方々、支援に来られてる医療関係者の方々、市役所の方々も同じです。ごみ受け入れ業者の方々もそうです。日中は休ませてあげてください。作業は今なら少し薄暗いですが朝午前中は4.00～9.00もしくは10.00まで。その後は涼しいところで休憩。夕方は17.00～可能な時間まで。というように県から指定してあげませんか？ぜひ、検討してみてください。それから段ボールベッド、仕切りなどを早く使ってあげてください。よろしくお願い致します。 【県からの回答】 ご意見のとおり、ボランティア等の作業を早朝、夜間に行うことは、熱中症予防の手段の一つです。国や県でも、災害時の熱中症予防のため、水分補給や十分な休憩、暑い時間帯の作業を避けるなどの呼びかけをおこなっております。ただし、騒音問題、防犯、被災者の皆様の生活リズムの保護の観点から、日中の作業が必要なものも多くございます。こうした日中の作業の際には、行政、社会福祉協議会から必要な飲料や涼める場所(クーリングスポット)を提供するなど、熱中症予防に万全を期しております。引き続き、被災地における被災者、支援者の皆様の熱中症予防に努めてまいります。

8月4日	地震の避難民の方々のマスク着用について	この度の地震の避難民の中からコロナ感染者が出たようですが、マスクをさせることは現に慎んでください。熱中症になります。また救援班もマスクはしないでください。笑顔で接することが励みになると思います。(もちろん熱中症の心配もあります)避難生活をしていれば体調も悪くなるでしょうが、それがコロナかインフルか、他の風邪かは今どうでもいいことです。PCR検査をするという無駄は避けてください。なおコロナは今、ただの風邪の症状しかありません。またワクチンに効果がないことがわかっています。(マスクも無意味)
8月4日	車中泊は禁止すべきだ。	車中泊は禁止すべきだ！70歳代の女性が死亡で発見された。それでも、車中泊は全否定されず、選択肢の一つと言われている。特に一人暮らしの高齢者・自宅駐車場で、の車中泊を続けていれば、早晚犠牲者が出る。発災6日後にやっと段ボールベッドが届いた。何もかも遅い。避難所ではコロナ感染が出た。避難所も閉鎖し、非被災地のホテルや旅館などに広域(二次)避難すべきだ。お風呂に入って、美味しいものを食べて、涼しい部屋でぐっすり寝れば良い。家のかたづけは、ボランティアを待てばよい。空き巣は、警察・消防団・自警団に警備してもらう。
8月5日	暑さをしのぐアイデアー 水で無くても良い！	避難所での停電・熱中症対策に関する安全な簡易クーラーの提案【本文】お忙しいところ失礼いたします。過去の震災や停電時の避難所におけしる熱中症対策として、身近な材料でできる安全な簡易冷却システムのアイデアをご提案いたします。本提案は、「尿素(にようそ)」 「水」「発泡スチロールの箱」のみを組み合わせたものです。尿素が水に溶ける際の急激な吸熱効果を利用し、電気のない環境でも涼しい空間を作ることができます。このアイデアには、災害時に優れた4つのメリットがあります。高い安全性:爆発の危険がある硝酸アンモニウムは一切使わず、尿素のみを使用するため、避難所でも100%安全です。安価で軽量:非常に安価で手に入り、発泡スチロールの箱を使うため軽くて手軽です。再利用可能:一度使用した後も、水分を蒸発させて乾かせば何度も繰り返し再利用できます。万能な用途:中の容器を取り出せば、熱中症患者の体を直接冷やす氷のう(アイスバック)としてもマルチに機能します。過去の震災でも避難所の暑さは深刻な問題でした。この知恵が、今後の自治体の防災訓練や避難所の備蓄アイデアとして少しでもお役に立てば幸いです。ご検討のほど、どうぞよろしくお願いいたします。
8月5日	復興支援金の使用用途詳細の開示	熊本県に対し、支援金の使途について意見を申し上げます。台湾、TSMC、芸能人の方々をはじめ、国内外から多くの支援金が熊本へ寄せられています。しかし、今回の復興に使われる支援金が「具体的にどこへ、どの割合で、どの時期に使われるのか」県民には十分に示されていません。さらに、10年前の地震の際に受け取った支援金についても、県として「どの事業に、いくら使われたのか」という詳細が県民に分かる形で公開されているとは言えません。支援金は、県外からの厚意と、県民の生活再建のための大切な財源です。それにもかかわらず、使途が不透明なままでは、県民として納得できる状況ではありません。まず優先すべきは、被災した住民の生活と住まいの再建です。住宅の修繕、生活基盤の復旧、地域の安全確保など、県民の生活に直結する部分を最優先にすべきです。観光資源や象徴的施設の整備は、生活が安定した後で取り組むべきであり、特に熊本城の復旧は「県民生活が回復してから」が妥当だと考えます。県には、今回の復興に使う支援金の使途、そして過去の地震時に使われた支援金の使途について、事業名・金額・期間を含めた詳細を公開し、説明責任を果たすことを強く求めます。支援金の受け取りだけでなく、その使い道を明確に示すことこそが県民の信頼につながると考えます。以上、県民として当然の疑問と要望を申し上げます。
8月6日	熊本地震における避難所のトイレ環境について(大人用オムツ利用の提案)	水道設備の整っていない避難所のトイレについて、衛生環境を大変危惧しています。猛暑の中、水洗のできないトイレは、とても不衛生で悪臭も気になります。避難している高齢者や子供がトイレをなるべく我慢しているというニュースを聞いて、心配しています。仮設トイレを増やすことはもちろんですが、それで問題解決という事にはならないと思います。大人用オムツを利用することで、トイレの我慢を少しは軽減できないでしょうか。大人用オムツを使う事に抵抗がある人がいるとは思いますが、不衛生なトイレや仮設トイレの臭いに我慢できない人にとって、オムツに用を足して捨てる方が、トイレの使用を控えている人にとって、使いやすいという人がいると思います。仮設トイレの場所に加えて、大人用オムツ交換の空間場所を作って、そこで用を足して捨てるということができれば、多数の人の使った不衛生なトイレを使わずに、自分の用を足して捨てることができます。用を足した後のゴミは、できれば真空にしたり・個別にビニールに密閉して捨てることできれば良いと思います。ゴミが増えるという問題はあってもいいかもしれませんが、大勢の人が利用する不衛生なトイレを使って感染症にかかる恐れがあることを考えれば、健康に変えられるものではないと考えます。もし、大人用オムツを使った方が良いという人が少しでもいる場合を考慮して、大人用オムツ利用の検討をして頂きたいと願っています。

8月7日	令和8年熊本地震でのとても公平さに欠ける支援施策	私は今回の地震で車中泊を強いられています。本日8/6、テレビ報道で被災された方への県営住宅への一時貸し出しの支援を知らされました。支援施策自体は被災者からすれば本当に待ち望んでいるありがたい施策ですが、申込自体が先着順となっており、とても納得がいきません。この支援施策自体が私自身もそうなのですが、車中泊していて情報を得にくい様な被災者、また、避難所生活を強いられている方には、このような情報が直ぐには得られません。知った時には提供できる住宅な決まっています。平等性に欠ける支援策だと感じました。情報連絡を徹底した上で、申込期間を決めてその後に、平等に提供される住宅を決めて頂きたいと切に思っております。
8月7日	二次(広域)避難を加速すべきだ。	一時避難所は、一週間が限界とされている。熊本県内及び周辺県内のホテル・旅館は大量キャンセルされているそう。その支援としても、二次(広域)避難を加速すべきだ。車中泊・軒下避難は禁止すべきだ！70歳代の女性が死亡で発見された。それでも、熊本県知事や赤十字病院の医師は、車中泊を是認し、選択肢の一つとしている。発災6日後にやっと段ボールベッドが届いた。何もかも遅い。一次避難所ではコロナ感染も出た。発災後一週間経ったので閉鎖し、非被災地のホテルや旅館などに広域(二次)避難すべきだ。できたら集団で送迎サービスがあれば良い。能登地震では、発災後三日目で金沢だどのホテルに行き、極楽だと言っていた。お風呂に入って、美味しいものを食べて、涼しい部屋でぐっすり寝れば良い。家のかたづけは、ボランティアを待てばよい。空き巣は、警察・消防団・自警団に警備してもらおう。高市が避難所に寄ったのは、たった3分間だったそう。福岡の自民党県議団は、熊本地震発生直後でも資金パーティーをしていた。こんな自民党政権・政策など信用できない。自民党熊本県議は、共産党が提起した小中学校体育館エアコン設置に反対したそう。だからエアコン設置率が低い。
8月10日	熊本地震にあたり、避難所の環境改善、被災者に寄り添った支援を緊急に求めます	私どもの会の会員から、先の見えない避難所生活を強いられるなかでの不安や要望を聞き取りました。以下、緊急に要請いたします。 記 1、迅速な上下水道の復旧をすすめるとともに、それまでの間は給水車を増やし、水の確保に力をつくしてください。 1、酷暑のなか、車のない人たちは支援物資を受けとりに行くことも困難です。在宅や車中泊の避難の高齢者の安否確認とともに、支援物資配布の体制強化をすすめてください。 1、災害救助法では、避難所での食事の提供は行政の責任で行うことと明記しています。2次避難でホテル等避難を希望する場合、食費なども無料となるようにしてください。 1、避難所にいる高齢の方からは「食事は固いものが多くて食べられない」という声が寄せられています。高齢者に配慮した栄養バランスのとれた食事が提供できるよう改善してください。 1、自治体職員の削減で人手が足りないなか、民生委員や区長など自分も被災した人たちが地域を回っています。共助に頼るのではなく、国の責任で支援体制を早急に整えてください。 1、被災者がお金の心配なく医療にかかるよう、医療費一部負担金および入院時の食事および生活療養費一部負担金の免除、保険料の免除を実施するよう、国に要請してください。 1、女性の意見を取り入れ、民主的な運営がはかられる避難所にしてください。高齢者用おむつや下着などの確保、洋式の仮設も含めトイレ対策の強化、女性が夜間も安心して利用できるようトイレ周辺の照明や設置場所、安心して使えるトイレを増設してください。 1、段ボールベッドやパーテーション配置、入浴体制の確保をすすめてください。ペット同伴が可能な避難所をつくってください。 1、被災者の精神的なケアのためのソーシャルワーカーを配置してください。
8月10日	今回の熊本地震による緊急支援の提案	件名：民間一戸建てを活用した「災害支援協力住宅」認定・助成制度の創設について本文:この度の地震で被災し、ライフライン(特に都市ガス・水道)が寸断され復旧を待つ中で、最も困ったのは「電気」と「水」と「お湯」の確保でした。現場では、個人の善意で「水をお使いください」と看板を出す一戸建てに大変救われましたが、提供者の経済的・防犯的な負担や、情報が近隣に伝わりにくい課題も痛感しました。何度も激震を経験したからこそ、これを個人の善意任せにせず、県が主導して「持続可能な仕組み」に変えるべきだと考え、以下の制度を提言いたします。【提案内容】民間の一戸建てを対象とした、熊本県公認の「災害支援協力住宅」の認定・助成制度の創設災害に強いプロパンガスの活用:都市ガスが止まった際でも、自己完結型のプロパンガス(LPガスやカセット設備)、太陽光、井戸等を持つ一戸建てを「防災協力住宅」として県が事前募集・認定します 。費用補償と行政主導の仕組み:災害時に近隣住民へお湯や水、充電環境を提供する協定を県と結びます。実際に提供したオーナーには、かかった水道・ガス代の実費補償や協力手当を支給し、安心して善意を発揮できる環境を作ります。公式マップ連動と認定看板の授与:ふだんは玄関に「災害時協力住宅」の公式プレート掲げ、日常の地域の心の支え(お守り)とします。災害時には県の防災アプリ等のマップにピンが立ち、避難所の過密を防ぐ小規模な地域拠点として機能させます。「すべての住民を公助だけで同時に救うのは難しい」という現実に対し、自立できる一戸建てを増やし地域で守り合う仕組みは、熊本県が全国に誇れる「先進的な防災の街」の証明になります。ぜひ前向きなご検討をお願い申し上げます。

8月10日	避難所ではハラル対応しないでください	避難所ではハラル対応しないでください多くの被災者がさまざまな制限の中、堪え忍んでいるのに、イスラム教徒だけ特別にハラル対応するなんておかしい。同じ被災者なら、他の被災者と同じ対応にしてください。イスラム教徒だけ特別待遇するのは他の被災者への差別です。
8月10日	地震対策の防災計画の件	【提言】令和8年熊本地震における「地震初動体験・建物被害緊急調査」の実施について 熊本県御中 令和8年熊本地震の被災者として、今後の地震防災と建物復旧に役立てるため、緊急調査の実施を提案いたします。今回の地震で、私は非常に特徴的な揺れを体験しました。従来よく表現される「左右に大きく揺さぶられる揺れ」や「下から突き上げられるような揺れ」とは異なり、地震発生直後、一瞬のうちに地面が大きく東西方向に動いたように感じ、足を払われるように倒れました。一方、同じ地震を経験した知人は、最初の揺れで北方向に倒れたと話しています。同じ地震でありながら、場所によって人が感じた「最初の揺れの方向」が異なるのであれば、その違いが何によって生じたのかを検証することは、今後の地震防災に非常に重要ではないかと考えています。そこで、建物の解体や復旧が進み、現場の証拠が失われる前に、熊本県として被災者への緊急アンケート調査を実施していただきたいと思います。調査項目としては、例えば以下のようなものが考えられます。 ・地震発生直後、最初に身体を持っていかれた方向・水平動と上下動のどちらを強く感じたか・最初の衝撃が一瞬だったのか、複数回だったのか・家具が最初に倒れた方向・建物のどの部分が最初に破損したか・建物の構造、築年数・建物のおおよその所在地・地盤や液状化の状況・地表の亀裂や段差の有無・その他、被災者が記憶している地震発生直後の特徴 これらを位置情報と併せて収集し、地震計による観測記録、地質情報、衛星による地殻変動、建物被害状況などと照合すれば、今回の地震による「揺れ方の地域差」をより詳細に分析できる可能性があります。これは単なる被災者アンケートではなく、今回の地震を将来の防災研究に活用するための「一次データの保存」だと考えています。特に重要なのは時間です。被災した建物は今後、危険防止や復旧のために次々と解体されます。建物の破損状況、家具の転倒方向、地盤との関係など、現場でしか確認できない情報が失われていきます。また、被災者自身が覚えている「地震発生直後の最初の1～3秒」の体験も、時間が経過するほど曖昧になっていきます。そのため、詳細な研究結果をすぐに出すことを求めるものではなく、まずは「今しか取得できないデータを保存する」という観点から、緊急調査を実施していただきたいと思います。今回得られたデータは、・今後の地震動の研究・地盤と揺れ方の関係の研究・建物被害と地震動の関係の分析・今後の耐震設計・被災建物の復旧方法・将来の熊本県の防災対策・全国の地震防災への応用など、多方面に活用できる可能性があります。私は、既に分かっている断層や地表の亀裂を調査することだけではなく、「なぜ同じ地震で、場所によって人が感じた揺れ方や建物の壊れ方が違ったのか」という、まだ十分に解明されていない部分を調べるのが重要だと考えています。また、収集した大量のアンケートについては、AIなどを活用して位置・揺れの方向・建物構造・被害状況・地質などを統合的に分析することで、人間だけでは見つけにくい地域的な傾向を発見できる可能性もあると思います。熊本県が今回の地震を単なる「復旧すべき災害」で終わらせるのではなく、「次の地震で人命を守るための貴重な研究資料」として残していただくことを願っています。特に、今後建物の解体が進む前に、可能な範囲で早急に一次情報を保存することをご検討いただけないでしょうか。一被災者からの提案ではありますが、今回の地震で得られる情報を未来の防災に活かしていただきたいという思いから、提言させていただきます。ご検討のほど、よろしくお願いいたします。
8月10日	復旧住宅はJR駅前へ	復興住宅の多くが用地手当てしやすい市街地から離れた用地に建てられ、再利活用が難しい。 一、JR九州等、駅前用地の地主の協力を得て、鹿児島本線、三角線駅前で定期借地を確保し、復興住宅を建てれば、将来、高齢者向け終身賃貸住宅に提供できる。 二、被災者のうち、幼児・高齢者家庭の通園や通院の列車内付き添いサポートを移住地メリットとしたサービスの効率化を目指したい。 三、JR側にとっても、通人社・高校生通学者に加え、安定的乗客数を増やすことができる。災害後の若い夫婦や高齢者通院負担のある家族の負担軽減化効果は大きい。震災で別居親族への負担軽減化はさらに絶大的効果をもたらす。 四、期間満了後の空室へ沿線自治体の高齢者住宅(地域内二地域居住等含め)として利活用し、高齢者総合病院等通院の列車内付き添いの効率的サービス提供ができる。 五、保育園等多様な子供園や養護施設の駅前集結を促すことができれば、災害復旧も効果的に進めることができ、且つ、コンパクトシティ化の引き金になればと考えます。

8月10日	宇城市の避難所にて	本日8月9日の日曜討論を拝見しました。地震直後から、必要な方に支援される情報を繋ぐボランティアをしております。災害から2週間近く、支援物資が各避難所に集まっている状況もわかっておりますので、災害支援が、民間の必死な動きから行政へ移っていくフェーズに変わっていく段階であるのも存じております。ただ本日8月9日以下のThreadがありました。これは大きな障壁です。圧倒的なマンパワー不足もあるでしょう。日曜討論で言われていた以上に深刻です。差配が出来る方々を是非避難所等に派遣なさってください。お願い致します。h_t_t_p_s://www.threads.com/share/_sI88fLI3/ 【県からの回答】 避難所における食料や飲料等の支援物資は、避難所内避難者の方だけでなく、在宅や車中泊で避難生活を続けられる避難所外避難者の方も対象となっております。お示しの投稿のようなことがないよう、各市町村に対し改めて周知を行うとともに、避難所における運営人員の確保のための人的支援も継続します。今後とも、避難所における良好な生活環境の確保に努めてまいります。貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。
8月10日	河川沿いの除草及び倒木のおそれのある樹木伐採	2024.11月に自宅前の菊池川沿いの県所有の護岸の除草を数十年ぶりにされました。2年近く経ちますがその後は一切、何もされていません。2年前と同じく竹が茂り、本来ですと近くの今村橋までの散歩道となっていました、荒れた状態です。また、2年前に県所有の土地に自生していた大きな木を4～5本伐採されましたが、こちらの要望もあり1本残してあります。それは問題ないのですが、もう1本残っており、本来は切って頂いてもよかった一番大きい木は伐採するには大きすぎるという県側からの通知で残してありました。(費用がかかるのか?)それが老朽化?先日の地震の影響がかなり傾いています。倒木の恐れがあります。一度確認いただき伐採及び除草願いたい。ちなみに自宅前は県所有ですが私(個人で)で除草等行っています。
8月12日	災害ボランティア活動証明制度の創設について(提案)	災害ボランティア活動証明制度の創設について(提案) 熊本県知事 殿 ― 被災地を支えたボランティアの善意を、将来につなげるために ― 熊本地震をはじめ、近年、日本各地で大規模な災害が発生しています。そのたびに、全国から多くの方々が被災地へ足を運び、瓦礫の片付け、清掃、物資の運搬、高齢者の支援など、さまざまな活動に汗を流してくださっています。こうした方々の活動は、被災地の復旧・復興に大きく貢献するだけでなく、日本社会における「助け合い」の精神を実践する尊い行為です。そこで私は、行政として、災害ボランティアに参加した方々に対して、単なるお礼にとどまらず、**「災害ボランティア活動証明書」**を発行する制度を創設していただきたいと提案します。 1. 活動したことを公的に証明する ボランティアに参加した人に、●氏名●活動した災害・地域●活動期間●活動日数●主な活動内容●受入れ団体等 を記載した「災害ボランティア活動証明書」を発行します。これは、その人が実際に被災地のために活動したことを公的に証明するものです。 2. 若い世代の将来にも役立つ制度にする 特に若い人にとって、この証明書は大きな意味を持つと思います。将来、就職や再就職をする際に、「私は災害発生時、被災地に赴き、〇日間ボランティア活動をしました」と具体的に示すことができます。企業側にとっても、それは単なる資格や学歴とは違う、本人の責任感、行動力、協調性、社会貢献への意識を知る貴重な材料になるのではないのでしょうか。 3. 特に顕著な活動をした方には感謝状を 全員に同じ「感謝状」を出すことが難しいのであれば、(1) ボランティア参加者全員→「災害ボランティア活動証明書」(2) 長期間・継続的に 活動した方、特に顕著な功績があった方→ 市長・県知事等からの「感謝状」という二段階の制度にすることを提案します。これならば、「感謝状」という表彰の価値を保ちながら、参加した一人ひとりの善意もきちんと記録として残すことができます。 4. 熊本から全国へ 熊本地震で生まれたこの制度を、熊本だけのものにする必要はありません。将来、能登半島地震や豪雨災害など、全国各地で災害が発生した際にも利用できる**全国共通の「災害ボランティア活動証明制度」**へと発展させることを期待します。災害ボランティアに参加することが、「人の役に立つ」→「社会に貢献する」→「その経験が自分自身の将来にも生きる」という仕組みになれば、若い世代がボランティアに参加するきっかけにもなるでしょう。おわりに 災害が起きたとき、被災者のために自分の時間を使い、交通費や宿泊費を負担してまで現地へ向かう人たちがいます。その善意に対して、「ありがとうございました」の一言だけで終わらせるのではなく、「あなたが被災地のために尽くしたことを、行政として記録し、証明します」という形で応えることは、社会として大切なことではないでしょうか。一人ひとりの善意を記録として残すことは、その人自身の将来を支えるだけでなく、次の災害が起きたときに「自分も誰かのために行動してみよう」という新しい善意を生み出すことにもつながります。熊本地震から10年という節目を迎えた今だからこそ、熊本から全国に先駆けて、「災害ボランティア活動証明制度」の創設を検討していただくことを、心から提案いたします。 令和8年8月10日
8月12日	ボランティア活動について	この度の地震に際し、一刻も早い平常への復帰を願っております。ところで、ボランティア活動が開始になった様ですが、各家の片付けも始まっているようですが、TV報道を観ているとアスベスト対策はしていない様ですが大丈夫でしょうか。防塵マスクの装着は必須にするべきです。将来肺がんになった方が出たら大問題になります。早急に対応をお願いします。

8月12日	熊本県管轄 (所有)河川沿 いの倒木	8/9に倒木の恐れがありますとお知らせしましたが、本日8/11夕刻だと思いますが、変な音がしたので外を見ると既に倒れています。我が家の方向に倒れていまして被害はありません。いちよ、下敷きになっている方もいないか確認しましたが大丈夫のようです。大至急、撤去をしてください。まずは連絡を大至急ください。
8月12日	2027年ツール・ド・九州における熊本クリテリウム開催方針の見直しと阿蘇ステージ継続の要望	ツール・ド・九州における2027年の熊本城周辺クリテリウム開催構想に対し、強く反対いたします。本大会が国内外の選手やファンを魅了する最大の武器は、世界に誇る「阿蘇の広大な大自然」を走るダイナミックなロードレースです。世界的なステージレースとしての大会ブランド価値は、この唯一無二の景観と過酷な山岳コースにこそあります。それを自ら捨て、市街地レースへ一本化する事は、大会の格と魅力を著しく落とす暴挙と言わざるを得ません。また、熊本市内には日常的に市民レースや自転車文化が根付いている土壌(実績)がなく、宇都宮市のような「自転車の街」としての市民の合意形成もなされていません。そのような都市の心臓部で、ただでさえ政令市ワーストレベルの慢性的な大渋滞の中、平日の昼間に大規模な公道規制を強行すれば、市民生活や物流、公共交通機関は確実に麻痺し、甚大な混乱と経済損失を招きます。「平日に市民の生活を奪って強行するレース」は、県民の強い怨嗟を生み、大会のイメージを著しく失墜させます。他都市の成功要因を無視し、見栄えやプロモーションのために生活現実を無視した構想は間違っています。大会の国際的ブランド価値を守り、市民の生活を守るためにも、熊本城クリテリウム構想を撤回し、阿蘇でのロードレースの継続を強く求めます。 【県からの回答】 本県では、九州各県や経済団体等と連携し、UCI(国際自転車競技連合)公認のサイクルロードレース「ツール・ド・九州」を開催しています。これまで熊本県内で開催した大会では、世界有数のカルデラを有する阿蘇地域を舞台に、雄大な自然景観を生かしたロードレースを実施してきました。阿蘇の自然や景観の中を国内外の選手が駆け抜ける姿は、本大会の大きな魅力の一つであり、熊本・阿蘇の魅力を国内外に発信する貴重な機会であると認識しています。今年度大会についても、大分県と共同で阿蘇地域を舞台としたレースを開催する予定です。 一方、令和9年度(2027年度)の大会については、熊本地震からの創造的復興の発信や熊本へのさらなる誘客促進、大会の認知度向上等につなげる観点から、熊本市内におけるクリテリウムの開催を目指し、検討を進めております。 市街地での開催は、多くの方に間近でレースを観戦していただけるとともに、熊本城をはじめとする熊本の魅力を国内外へ発信し、サイクルツーリズムの推進や観光振興、地域活性化につなげることが期待されます。 その一方で、御指摘のとおり、市街地における大規模な交通規制は、市民生活をはじめ、物流や公共交通、周辺事業者等に大きな影響を及ぼす可能性があります。このため、安全な競技運営が可能なコースであることはもとより、交通規制による市民生活や経済活動、公共交通等への影響をできる限り抑えることができるよう、警察・道路管理者・交通事業者をはじめとする関係機関との協議を早期から進め、十分な検証を行いながら検討を進めているところです。 また、実際の開催に当たっては、県民・市民の皆様や沿道の事業者等の御理解と御協力が不可欠であることから、交通規制の内容や影響等について十分な周知期間を確保し、丁寧な情報発信に努めてまいります。 なお、熊本市内でのクリテリウム開催を検討していることをもって、2028年度以降、阿蘇地域でのレースを開催しないことを決定したものではありません。阿蘇地域が有する雄大な自然景観やコースの魅力は、本大会及び熊本のサイクルツーリズムにとって大変重要なものと認識しており、今後の大会のあり方については、こうした地域の魅力や大会全体の発展等も踏まえながら検討してまいります。 今回いただいた、阿蘇地域におけるロードレースの魅力や大会のブランド価値、市街地開催による市民生活等への影響に関するご意見につきましては、今後の大会のあり方を検討する上での貴重なご意見として受け止めさせていただきます。 今後とも「ツール・ド・九州」が地域の皆様に御理解、御協力をいただき、国内外から多くの方に親しまれる大会となるよう取り組んでまいりますので、県政への御理解と御協力を賜いますよう、よろしくお願い申し上げます。
8月13日	お身体に支障 が 出 ま せ ん よ う に	木村 敬 知事、および県庁スタッフの皆さまへ 今回の地震の報道を毎日、拝見しています。ご自分たちも被災されている中、また、猛暑の中、日々の活動、大変お疲れさまです。どうか、お身体を大切に、ご無理をなさりませぬように。熊本にこれ以上、被害が出ないことを祈り、皆様が1日も早く元の暮らしに戻ることを願っております。同じ日本国民として、「こころは1つ」だと思っております。

8月13日	熊本地震寄付の使い道について	熊本地震被災者から、10年前にも被災したのに今回の地震は余りにも備えがなすぎ、中抜きされてるのではとされています。66億円超の寄付が集まったと報道で伺っています。全て今回の被災補償に使って下さい。私も寄付した1人です。よろしくお願い致します。66億円あればAIによれば以下の事ができます。 ・支援内容農業用水路やため池の応急・本復旧:地震で寸断された水路(八代平野などでの数百カ所の損壊)のコンクリート補修や、水流の確保。 ・農地・農業用施設の復旧支援:田畑の地滑り・亀裂の修復、およびパイプハウスや農業用機械の破損に対する再建補助金。 ・被災農家への直接支援:収入源が絶たれた農家や、栽培中の農作物(イチゴやトマト等)が枯死・出荷不能となった場合の補填および営農再開資金の支給。
8月14日	令和8年熊本地震の避難所への個室型テント等の配備について	令和8年熊本地震で被災された方々への支援について、一国民としてお願いがあります。避難所となっている体育館等に、プライバシーを確保できる個室型の避難用テント・パーティションを、可能な限り早急に配備していただけないでしょうか。過去の災害では、避難所における性暴力や性被害、着替え・授乳・就寝のプライバシー確保などが繰り返しの課題となってきました。特に女性や子ども、高齢者等が安心して眠り、生活できる環境を整えることは、単なる快適性の向上ではなく、被災者の安全と尊厳を守るために重要だと考えます。台湾等では、大規模地震の際、体育館内に個人・世帯ごとのテントを設置した避難所の事例があります。日本でも既に国や自治体が保有している個室型テント・パーティション等があれば、被災地域への緊急融通をご検討いただき、不足する場合には、国内だけでなく台湾・韓国等を含む海外からの緊急購入・調達も選択肢として検討していただきたいです。また、今回の対応だけでなく、今後は全国の指定避難所について、想定避難者数に応じた個室型テント・パーティション等の最低備蓄基準を設け、災害発生直後からプライバシーを確保できる体制を整えていただければと思います。既に多くの方々が被災地支援に尽力されていることに感謝しております。そのうえで、被災された方々が少しでも安心して生活できる環境を一日でも早く実現していただけますよう、お願い申し上げます。
8月14日	被災者とキャンセル旅館のマッチング	今回の被災、心よりお見舞い申し上げます。10年前、八女にも御地から避難者や患者が来られました。今、2次避難が課題となっています。一部、仮設住宅の建設も始まったようです。思い出すのは、能登地震で、多くの被災者が金沢他の県内旅館に2次避難され、風評被害で困っていた旅館業の支援となった事例です。今回は県南の被害に比べ、熊本市などは比較的軽度で済んでいるようです。何故、2次避難先として県内の旅館などの活用をされないのか、疑問です。勿論、費用は国、県が負担する必要があります。ウインウインの解決策の候補として検討頂けると幸いです。
8月17日	AIデータセンターに伴う水処理施設の義務化について	現在、地方分散型データセンターの推進に伴い、本県においても大規模AIデータセンターの立地計画や誘致が注目されています。先進インフラの整備が進む一方で、水冷式データセンターから排出される大量の排水による水環境への負担を懸念しております。冷却後の温排水や冷却塔で使用される防腐剤・防藻剤等の薬品を含む排水は、事前処理なしで流された場合、県内の河川・沿岸部の水質悪化や生態系への影響、下水道インフラへの超過負荷を引き起こす恐れがあります。つきましては、県民の安心・安全な生活環境と豊かな自然を守るため、以下の対応を強く要望いたします。 1. 県内で建設される大規模AIデータセンターに対し、水処理施設(排水冷却・浄化施設および高度循環利用システム等)の併設を必須要件とするガイドラインや公害防止協定の基準を確立すること。 2. 水質汚濁防止法に基づく上乗せ基準の適用や公害防止条例の活用により、温排水や排水水質の監視・指導体制を強化すること。 環境保全と経済成長が両立する県政の実現に向け、何卒ご検討をよろしくお願い申し上げます。
8月17日	農家と被災者救済	被災者の皆さんは野菜不足です。被災地の農家は出荷先がありません。大量のキャンセルが出て廃棄も増えています。県が野菜を買い取り店を開けない店主を県が雇い。避難所でホットプレートで被災者の皆さんに野菜炒めを食べて貰うのはどうでしょうか。被災地のそれぞれの市内で循環をさせて下さい宜しくお願いします。

8月17日	猛暑時の避難所および復旧作業における「水を利用した身体冷却」の提案	熊本県御中 1. 提案の趣旨 猛暑の中で避難生活を送る方々や、被災地で復旧・復興作業に従事する方々の熱中症を防ぐため、水を利用して身体を冷やす方法を、簡単に実施できる暑さ対策の一つとして試験的に導入することを提案します。2. 私自身の体験 私は猛暑の中でウォーキングをする際、ウェアを水で濡らしてから着用したことがあります。実際にやってみると、風を当てなくても非常に涼しく感じました。水分が身体の熱によって蒸発することで、身体の熱が奪われ、暑さが和らぐように感じます。また、髪も水で濡らし、そのまま乾かさずにいると、頭部も涼しく感じました。この経験から、エアコンが不足している避難所でも、特別な設備を必要とせず、水を利用することで身体を冷やす方法が活用できるのではないかと考えました。 3. 避難所での活用 例えば、避難所において、本人が希望する場合に、薄手のシャツやウェアを水で濡らして着用する濡らしたタオルを首や額などに当てる頭や髪を水で濡らし、そのまま乾かさずに過ごす霧吹きなどで身体を湿らせるといった方法を試してみてはいかがでしょうか。これらは、扇風機などの機器がなくても実施できることが大きな利点だと思います。もちろん、扇風機や送風機が利用できる場合には、濡れた衣類や身体に風を当てることで、さらに涼しく感じられることも期待できます。 4. 屋外で復旧作業をする方々への活用。また、エアコンが順次避難所などに届き、避難所の環境が改善されていったとしても、がれきの撤去、道路の復旧、家屋の片付けなど、屋外で作業する方々にはエアコンを利用することができません。猛暑の中で復旧作業を続ける方々にとって、熱中症対策は非常に重要です。そこで、屋外作業に従事する方々にも、水で濡らしたシャツや作業用ウェアを着用する濡らしたタオルを首などに当てる頭や髪を水で濡らす休憩時に身体を水で冷やす。などの方法を、暑さ対策の一つとして検討していただきたいと思います。特に、作業開始前や休憩時に衣類やタオルを水で濡らせるよう、作業現場に十分な飲料水とは別に、身体冷却用の水を用意することも考えられるのではないのでしょうか。 5. 衛生面について 避難所や作業現場では衛生面への配慮も必要だと思います。しかし、猛暑の中では熱中症による健康被害も深刻です。そのため、清潔な水を使用する、タオルなどを共用しない、濡れた衣類は適宜交換するなど、基本的な衛生管理を行った上で、「身体を水で冷やす」という方法を選択肢の一つとして提供することには意味があるのではないのでしょうか。 6. 試験的な実施・検証のお願い これは私自身が実際に試して「とても涼しい」と感じたことから考えた提案です。実際の避難所や屋外の復旧作業現場でどの程度の効果があるのかについては、専門家の意見も踏まえて検証していただく必要があると思います。
		そこで、可能であれば、(1) 避難所での暑さ対策 (2) がれき撤去など屋外で復旧作業をする方々の暑さ対策の両方について、「水で衣類やタオル、頭髮などを濡らして身体を冷やす方法」を試験的に実施し、熱中症対策としての有効性を検証していただけないでしょうか。エアコンの設置が進んだとしても、屋外で活動する人々の暑さを解決することはできません。一方、水を利用した身体冷却は、特別な機器がなくても実施できる可能性があります。猛暑の中で避難生活を送る方々だけでなく、被災地の復旧・復興のために汗を流している方々の健康と命を守るためにも、「水で身体を冷やす」という身近で簡単な方法を、暑さ対策の一つとして検討していただきたいと思います。以上、被災された方々および復旧作業に従事される方々の健康と命を守るための一案として、提案いたします。
8月18日	新幹線高架橋壁のパネル落下	新幹線高架橋の下の道路を挟んで家を建ててますが、今回の地震でいくつも道路に落ちていました。道路に誰もいなかったから良かったですが、もし誰かいたらと思うとハラハラします。10年前も何軒か先の家の庭に落ちていました。今回はカーポートの上に落ちており、たまたま車もなくカーポートがぐちゃぐちゃになっただけだったから良かったと思いました。地震は又いつくるか分かりません。高架橋壁のパネルが地震に耐える事が出来る様に補強をきちんとし、新幹線を再開して欲しいと思います。 【県からの回答】 まずは、今回の地震により、カーポートに被害を受けられたことにつきまして御見舞申し上げます。 九州新幹線については、高架橋の防音壁の被害などの多数の施設被害を受けており、不通となっています熊本駅～新水俣駅間の復旧に向けて、現在、九州旅客鉄道株式会社において復旧作業が行われております。 岩本様のカーポートの被害については、九州新幹線の施設管理及び運行を行っている九州旅客鉄道株式会社に連絡はされておりますでしょうか。 今回いただいた御意見につきましては、九州旅客鉄道株式会社に情報提供するとともに、今後の復旧に際しては再発防止についても検討いただくようお願いさせていただきます。
8月19日	派遣職員の態度について	和8年熊本地震の対応でお忙しくされてなか、どうしてもお伝えしたいことがありこちらから送らせていただきました。本日、被災自治体への応援として氷川町へ派遣されてきました。今回の派遣は避難所の運営応援でした。氷川町役場に集合後、県職の方より避難所の受け持ちを説明され、指示された避難所へ向かい、氷川町と高知県の職員さんより説明を受けて業務を行っておりました。ご飯の配布が終わり、落ち着いたころ、受け持ちを説明された男性を含む男性2名と女性の職員(全員熊本県職員)が来場され、状況を確認されておりました。しかしこの3名の職員さん、一言の挨拶をされることも無く、こちらを一瞥するだけで状況を見るだけ見て出ていかれました。職員さんも連日の業務で大変お忙しくされているとは思いますが、慣れない業務をされている部分もあって、気が回らなくなっていらっしゃるかと思います。一言、「おつかれさまです」などのあいさつがあってもよかったと思います。私を含む他の自治体の職員さんも、絶句しておられました。もし、一言のあいさつをされる余裕もないぐらい追い詰められているならば、勤務体制の配慮をお願いできたらと思っております。

8月19日	熊本地震応援の件	現在終活中です。まもなく被災者住宅等が建設されると思います。食器やTV(シャープの地デジ開始当時に2台購入し1台はお客様用としあまり使用しておりません)、や衣類等を整理中です、宜しければ提供したいと思います、ただし取りにくければの話です。提案ですが北九州市で私と同じ考えの方が多くおられると思いますので、集荷場所を市民センター等にされると集めやすいのではと思います。0円買取みたいなシステムで回収時期などを市長と相談されてはいかがでしょうか、捨てるのはもったいないので(人に汚いものボロボロのものをやる気はありません)集荷チラシには汚いものボロボロのものはご遠慮下さい等明記すればよいかと思います。中古品の良いものが集まり過ぎたらタイ国などに販売し、利益が出たら県の財源にすればよい。検討してみたいはいかがでしょうか。追伸 私達 夫婦は芦北町の出身です。以上
8月19日	八代市の罹災証明書発行の遅延応援を	自宅避難を続けている被災者です。8月4日、オンラインで罹災証明書発行手続きを申請したのですが、未だに現地調査等も行われず、何の連絡もないので、市民税課に問い合わせたところ、「人手が足りない」「1万人を超える申請が来ているので、対応し切れない」、挙げ句に「このような電話に出る時間も惜しい」とまで言い放たれました。被災し、壊れた家になんとか家族で住んでいるのですが、建築業者からリフォームの見積もりをもらっても罹災証明書発行前に着工はできないと財務課から言われましたとの担当者から聞きました。もちろん、証明書がなければ保険の手続きもできませんし、私だけでなく、近隣はもとより、市内全体を見ても罹災証明書の発行がスムーズに進捗していませんし、情報もcloseされています。こういった大きな地震が発生する度に生じる問題ですが、被災者は片付け作業の疲労と先の見えない不安の中、ただ時間だけが過ぎていくと感じる毎日です。一刻も早く罹災証明書の発行が進むよう、八代市(宇城市や氷川町も含め)へ、罹災証明書発行のための人員の増員、行政支援をぜひお願いします。また、マンパワーに頼る方法だけでなく、やり方の工夫もあるではないかと思いますが、いかがでしょうか。
8月20日	被災地の瓦の再利用	、転勤で熊本市中央区水前寺5丁目に住んでおります。今回の被災地に職務で何度も行っています。柱が倒壊し倒れている家で明らかにそこには住むことが困難な方の瓦を、瓦不足でブルーシートを張って家で過ごしたい方に再利用して瓦が修復出来れば避難所から帰宅出来る制度は無い事は分かっております。今、熊本から再利用について国に何か働きかけてもらえると良いかと思い投稿しました、お忙しい所、申し訳ございませんが、今後何か役に立てばと思います。
8月20日	県の災害対応に民間人がいることについて	県における災害対応にあたって、一部民間人がいることは一定程度仕方が無いと思いますが、乱暴な態度、言葉使いでいる方がいます。また、たびたび支援と言いつつ営業をされているように見えます。そもそもどうしているのか分かりませんが、色々な情報を扱っている県庁内で、ボランティア？と言っていれば庁内にアクセスできる、支援といえれば何でも言えるような状況とするのは注意すべきだと思います。特定企業の営利活動に使われているように見えました。
8月21日	肥薩線の鉄道復旧を破談に賛成	今回の地震でもう分かりましたよね？これを機に肥薩線の鉄道復旧を破談して貰いませんか？そして、もういい加減現実をしっかりと見て下さい！こんな苦しい時に熊本県と国はわたらの血税を約500億以上を溝に捨てるのか？これを決行するとなると、本当に先が思いやられるわ！
8月24日	災害時弱者である障がい者はどうすればいい？それに障がい者を持つ親としては安心して死ねないけど、どうすればいい？	災害時弱者である障がい者はどうすればいい？それに障がい者を持つ親としては安心して死ねないけど、どうすればいい？

8月24日	避難所での空調設備の整備について	この度の令和8年熊本地震で浮き彫りとなったのが、避難所での空調設備の整備だと思います。空調設備の整備が整備されていない避難所では、暑い中で避難所にいる方が避難を余儀なくされているわけです。もし、避難所での空調設備の整備が間に合っていたら、そんなことにはならなかったと思います。そこで、今後の夏場の災害に備え、避難所での空調設備の整備を行い、夏場でも安心して避難が出来るようにしないといけないと思います。是非とも、優先順位をつけて、避難所での空調設備の整備を行っていただきますよう、よろしくお願いいたします。もし、夏場に災害が発生した際に、避難所に空調設備が整備されていないと、また、同じようなことが起こりますので、その点を頭において、避難所での空調設備の整備を急いでほしいと思います。 【県からの回答】 御意見のとおり、夏季の災害において、空調設備は命を守る重要な要素のひとつであり、避難所となる施設への設置拡大の取組みについては、今回の地震発生以前も進められておりました。しかし、学校の体育館など、一部の避難所となる施設には空調設備が設置されていなかったため、今回の地震では、国と連携し、業務用エアコンやスポットクーラーを設置して対応したところです。今後も継続して、国や市町村と連携し、空調設備のない避難所への整備が早急に進むよう、取り組んで参ります。また、今回の地震においては、停電により空調設備が使用できない避難所もございました。こうした避難所には、空調の回復のため、電源車を派遣するなどにより対応しました。今後は、空調設備の設置拡大の継続と、避難所における停電対策も含めて、避難所の生活環境改善に取り組んで参ります。
8月24日	段ボールベッドの設置について	お疲れ様でございます。今回の地震での段ボールベッドについてですが、○熊本県でも日頃からある程度段ボールベッドをを保有しておくといいいのでは。○地震後の(市町村の)段ボールベッド設置は速やかにしていただきたいです。全員に行き渡るまで待つのではなく、入手分から次々と、人手が足りなければ避難している方に手伝ってもらうなどして設置すればいいと思います。
8月24日	熊本県知事様(災害対策本部 御中) 被害状況: 住家「全壊」	八代市へオンライン申請完了後、市災害対策本部へ電話確認。「画像は確認済。自動で現地調査に回るため待て」と明確に指示された。その後、進捗がないため再確認したところ、一転して「現地調査の依頼になっていない。今から出すので時間がかかる」と覆された。職員は誰も名前を名乗らないにもかかわらず、過去の案内ミスを指摘すると「誰が言ったのか」とこちらに責任を転嫁した。【強い要望】
8月24日	豊野町で断水解消とされる中、水道組合区域で生活用水を確保できない世帯が残っています	今回の地震により、宇城市豊野町の自宅では現在も水道を使用できない状態が続いています。私の地域は市の上水道ではなく、水道組合が管理する共同井戸を水源としており、井戸からポンプで各家庭へ配水する仕組みです。現在もポンプが稼働していると思われ、水の流れる音も確認できます。また、低い地域では水が出ているとの話もありますが、自宅では通水しておらず、組合からも具体的な復旧時期は示されていません。宇城市からは豊野町全域で断水解消との発表があり、給水車も撤退したと認識しています。しかし、水道組合区域では現在も生活用水を確保できない世帯が残っている可能性があります。市へ相談したところ水道組合の管轄とのことで、組合からも具体的な対応を示されていません。水が出ない状態では、飲料水だけでなくトイレ、洗面、入浴、洗濯等、生活そのものが成り立ちません。市の上水道の復旧状況だけでなく、水道組合等の別系統についても未通水世帯の実態を把握していただきたいです。また、水源やポンプが稼働している可能性がある中で、なぜ各家庭まで水が届かないのか、技術的な調査・復旧をどこに相談すればよいのか、県として関係機関との調整や支援が可能なのか、ご対応・ご教示をお願いします。
8月24日	休業手当の上乗せをお願いできないでしょうか	国の雇用調整助成金の活用を検討していますが、三分の二しか補助されません。例えば、県で上乗せして補助してもらえるような制度はありませんでしょうか。出来ればハローワークからの支給を条件に上乗せしてもらえると、私たちも手間が少なくて助かります。

8月24日	今後の地震に備えて、公立小中学校の水道を生活用水拠点として開放できるよう緊急用野外水道施設の新設設置をお願いします。	ご尽力頂き、心から感謝申し上げます。公立小中学校の水道を、生活用水の給水拠点として開放できるよう、緊急用野外水道施設の新設設置をお願いします。今回の活断層の割れ残り約40kmが、今後、動く可能性が指摘されています。被災復興と同時進行で、整備をお願いします。陳情申し上げます。
8月26日	地震による通学困難者への対応	八代高校1年生の子を持つ保護者です。地震前は片道15kmの通学路を学校最寄り駅まで電車で行き学校へは自転車で通学していました。地震により電車通学が出来なくなり、臨時でバスが運行されますが、有佐駅に臨時バスは来ず、離れた隣町にしか来ず、自転車の距離が長くなるだけの状態です。このバスに乗ったとて、最寄り駅到着が8:30、そこから自転車で急いでも15分の遅刻となります。遅刻しない手段としては、朝早くから15kmを自転車で行くしかなく、親としては猛暑の中、自転車をこいで学校まで行けとは言えません。JR復旧までの間、オンライン授業での対応をして頂きたいです。よろしく願いいたします。
8月26日	Wi-Fiスポット	県の機関(特に広域本部や振興局)へのフリーWi-Fiの設置を要望いたします。
8月28日	県道の適正な管理について	南関町内の県道ですが、中央線が消えていたり、薄くなっていたりする所が多々あり、非常に危険です。中央線をはみ出して来る車に何回も遭遇しました。この3年以内に「中央線を引いてください」と2回玉名警察署に電話で要望しましたが、なかなか改善されません。何故でしょうか、教えてください。中央線が分からないと夜や雨の日は特に危険です。対向車が中央をはみ出して来たら回避は困難です。事故が起こってからでは遅いです。県が損害を賠償できますか？死んだらどうしますか？本当に…… 運転中のスマホ操作を多々見かけます。本内容は「県への提案」の主旨と外れるかもしれませんが、本当に困っているし、危険なので送付させていただきました。どうぞよろしくお願い致します。
8月31日	地震の避難所について	地震からひと月が経過しましたが、まだ避難所せいかつを強いられる方々あるいは、遠慮から避難所にいくことを控えている方々も大勢いらっしゃると思いますがふえりーや客船を何故避難所として利用することを検討されないのでしょうか？お決まりの劣悪な環境の避難所しか発想にないのですか？海も近いのですから有効な避難所になりうるはずですよ。コロナの時を思い出してください。 【県からの回答】 避難所や在宅、車中泊での避難生活の長期化により様々な健康への悪影響が心配されます。本県では、少しでも心身の負担を軽くし、被災者の方に安心してお過ごしいただけるよう、環境の整ったホテルや旅館等の宿泊施設への二次避難を進めております。また御意見のとおり、フェリーや客船の活用も有効な手段でございますので、国と連携し、八代港にフェリーを停泊させ、宿泊支援を実施しております。今後も継続して、有効な手段を検討し、被災者の皆様の避難生活を支援して参ります。
8月31日	熊本セミコン特定公共下水道事業の事業計画書P8の財政計画書の修正について	○熊本セミコン特定公共下水道事業の事業計画書において、予定処理区域は(2)-2のとおり「下水道計画一般図 表示のとおり」とされ、熊本セミコン処理区67.9ha(36.3ha及び31.6haの区域)の特定企業が事業活動を行う範囲に限定されています。 ○また、P(2)-5の(様式1)施設の設置に関する方針、及びP(2)-6～(2)-7の(様式2)施設の機能の維持に関する方針、特に「b)施設の長期的な改築の需要見通し」においても予定処理区域の拡大については予定されていません。 ○以上から、熊本セミコン特定公共下水道事業で造成された施設の利用者(事業者)は、熊本セミコン処理区内で事業活動を行う特定企業に限定され、特定されていることは明らかです。 ○このため、熊本セミコン特定公共下水道事業は、「公害防止事業事業者負担法」第2条第2項4号の施設として、同法第2条の2及び第4条第1項の規定(第3項の「当該公害防止事業に係る施設を事業者以外の者の利用」が存在しない)に基づき、事業者が事業費の全部を負担することになるものと考えます。 ○したがって、P(2)-8の(様式3)財政計画書の「ロ)財源の部」の建設改良費の「国費」及び「起債」の欄の値については「0」とし、「他会計繰入金」の欄を事業者負担額の建替え分として「計」の欄と同じ値とすることを提案します。

8月31日	九州復興応援割について	九州復興応援割の事を本日知ったのですが、現時点に予約しているのは割引の対象外になるかも知れないとの事を知り九州旅行をやめないといけないのかなと、考えています。10月1日以前の予約でも以後の予約でも公平におこなって欲しいと思います。コロナの旅行支援みたいに事後申請でも良いのではないかとおもいます。検討の程よろしくお願いします。
-------	-------------	---